

W6章 実体の分類 I (形式)

形式で分類

この章では次のようなことを扱います。

W6.1 実体は形式で分類すると8種類 (84)

実体を構造形式で分類します。次の8種類になります。

W6.2 実体[1] 普通実体 (86)

普通実体の [1a] [1b] [1c] (86)

普通実体A (88) 職人, 革, 箱

普通実体B (88) 私, 夫, 母

普通実体C (88) あなた, 今日, ここ

普通実体D (89) の

普通実体E (89) につきり, 静か

普通実体F (89) とうてい, かいもく

W6.3 実体[2] 疑問実体 (90) なに, どれ

W6.4 実体[3] 不特定実体 (91) なにか, どれか

W6.5 実体[4] 円筒実体 (92) さ, み, げ

W6.6 実体[5] 転成実体 (93) 読み, 遠く

W6.7 実体[6] 包含実体 (94) の, 〇, こと

W6.8 実体[7] 形容実体 (96) 美し, うれし

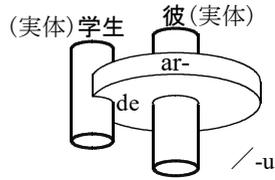
W6.9 実体[8] 否定実体 (96) (a)na

W6: 実体は形式で分類すると8種類

「実体」とは、右図の「彼」「学生」のような、構造上で「円柱」で示されるものです。描写されると「実詞」になります。

下表のように、構造上の円柱のあり方によって8種類に分類されます。それぞれの種類には「……実体」という名がついています。

表W6-1 実体の8種類の分類表

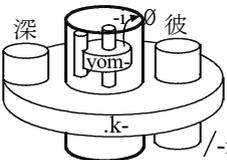
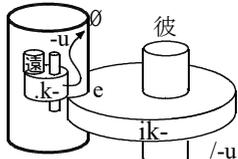
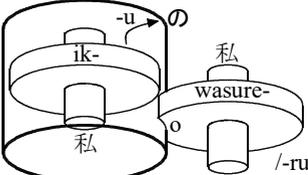
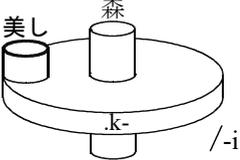
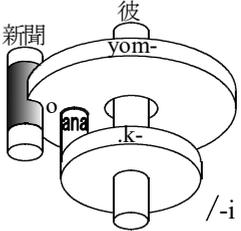


図W6-1 彼-01 学生-de ar-u (実詞) (実詞)

No.	実体名	実体説明, 実詞名, 実詞例	実体の構造上の形
実体 [1]	普通実体 A~Fの6種類がある	一般的な実体 普通実詞 海, 顔, 植物, 船, 月, 野球, 人間	<p>職人-ga 革-de 箱-o tukur-u.</p>
実体 [2]	疑問実体	属性の板に穴をあけ, 疑問を表す実体 疑問実詞 なに, どれ, どこ, だれ, いつ, なぜ, いくら	<p>あなた-01-wa なに-o nom-i-mas-u か.</p>
実体 [3]	不特定実体	[2]の穴を「か」で埋め, 不特定を表す実体 不特定実詞 なにか, どれか, どこか, いつか, だれか	<p>あなた-01-wa なにか-o nom-i-mas-u か.</p>
実体 [4]	円筒実体 実体内蔵実体	実体を内蔵する実体 円筒実詞 さ, み, げ, そう, らし, つぼ, まっ	<p>長+さ-ga 十分-d(e) a(r)-u.</p>

問W6-1 「[1]普通実体」のA~Fの実体とはどんなものですか。

「実体」は「名体」といってもよいものです。「実詞」は「名詞」ともいえます。

<p>実体 [5]</p>	<p>転成実体 属性内蔵実体</p>	<p><u>動詞・形容詞からできた実体</u> 転成実詞 動詞から 読み(yom-i=0), 動き, 怒り</p>  <p>彼0₁, <u>yom-i=0-ga</u> 深い。</p>	<p>包含実体的一種</p> <p>形容詞から 遠く(too.k-u=0), 早く</p>  <p>彼0₁, <u>遠k-u=0-e</u> ik-u.</p>
<p>実体 [6]</p>	<p>包含実体 構造内蔵実体</p>	<p><u>構造を内蔵する実体</u> 包含実詞 の, 0, こと, ところ, もの, わけ, とき</p>  <p>ik-u=<u>0</u>-o wasure-ru.</p>	
<p>実体 [7]</p>	<p>形容実体</p>	<p><u>形容詞を構成する実体</u> 形容実詞 美し, うれし, 暑, 若, 遠</p>  <p>森-ga <u>美し</u> k-i.</p>	
<p>実体 [8]</p>	<p>否定実体</p>	<p><u>否定詞を構成する実体</u> 否定実詞 (a)na</p>  <p>新聞 <u>ana</u>-wa yom-ana.k-i.</p>	

問W6-2 実体[5]は「属性内蔵実体」で、実体[6]は「構造内蔵実体」です。違いは何？
 問W6-3 「青」という実体は実体[1]の使い方と、実体[7]の使い方がありますか。

実体[1] 普通実体

格に立つあり方で分類すると、右の3とおりになります。

[1a] 主格・客格に立つ実体

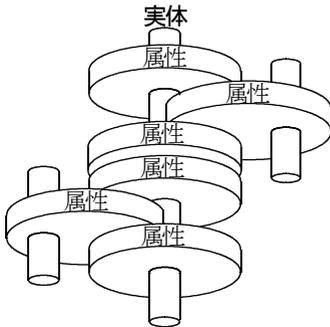
[1b] 客格にしか立たない実体

[1c] 否定属性の客格にしか立たない実体

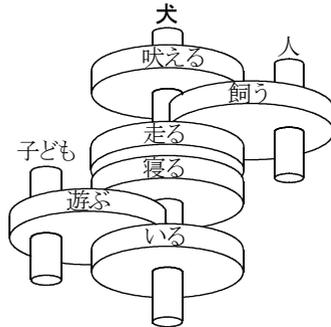
[1a] 主格・客格に立つ実体

普通実体A, B, C, D

実体(円柱)は、主格(の1,が)・客格(を,に,で)等)で、属性と関わります。客格で関わる場合は、図W6-4,5,6 のように中央に線を入れて示します。



図W6-2 実体は主格・客格で属性と関係



図W6-3 実体の例「犬」

主格実体

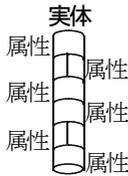
属性

客格実体

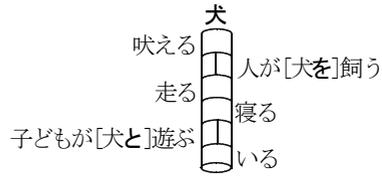
属性

図W6-4

実体



図W6-5 実体は属性の集合体…円柱



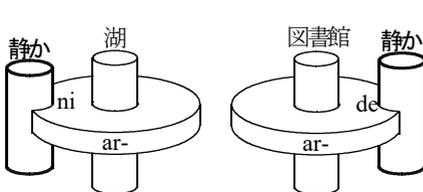
図W6-6 実体(円柱)の例「犬」

[1b] 客格実体

普通実体E

客格にしか立たない実体もあります。

たとえば、「静か」という実体は、ふつうニ格、デ格にしか立ちません。



図W6-7 客格にしか立たない実体「静か」



(湖が) 静か-ni ar-u
(図書館が) 静か-de ar-u

静かな湖 静か-ni ar-u 湖
湖は静かになる 静か-ni nar-u
湖は静かである 静か-de ar-u
湖は静かだ 静か-de ar-u

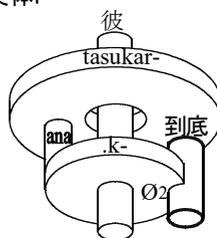
[1c] 否定属性の客格にしか立たない実体

普通実体F

実体「とうてい(到底)」は、現代語では否定属性の客格「 \emptyset 2格」にしか立ちません。

彼- \emptyset 1は とうてい- \emptyset 2 助からないの構造は右図のような図示になります。

ほかの格には立たないので、「とうていが…」「とうていを…」「とうていで…」などと言いません。



図W6-8 とうてい助からない

この「とうてい」のような実体は、否定属性の客格にしか立ちません。「とうてい助かる」とは言えませんので、「とうてい」は属性「助かる」に関わってはいません。

「[1]普通実体」にはA～Fの6種類があります。

[1a]～[1c]のいずれかに属します。

A	B	C	D	E	F
[1a]	主・客	[1b]	客	[1c]	否定

表W6-2 普通実体A～F (説明は次ページ)

		意味安定実体	
		普通実体A	実詞A 海, 顔, 植物, 船, 月, 野球, 人間 「海」の意味は話者・状況に関わりなく一定です。
[1a]	普通実体B	話者依存実体……話者により指す実体が異なる実体	実詞B 私, 夫, 母, 自分, 弟, いとこ 「私」は発話者によって人が変わります。
	普通実体C	状況依存実体……状況により指す実体が異なる実体	実詞C あなた, これ, ここ, いま, 今日, 今年 「あなた」は目の前の人により変わります。
	普通実体D	代用実体……使用の際では必ず修飾される実体	実詞D の 「のを読んだ」では不足で, 修飾が必要です。
	[1b]	普通実体E	格限定実体……立つ格が限定されている実体
[1c]	普通実体F	否定限定格実体……否定属性の限定格で使用される実体	実詞F とうてい, かいもく 「とうてい」は「ない」の \emptyset 2格にしか立ちません。

問W6-4 「ひらひらと散る」を説明してください。

問W6-5 「山が美しいので写真に撮った」の「山」の格を説明してください。

[1] 普通実体A~普通実体F の6種類

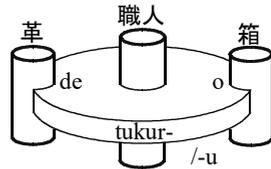
実体[1] 普通実体A~普通実体Fのそれぞれについて説明(前ページ参照)。

[1] 普通実体A 意味安定実体 実詞A

この「普通実体A」は、主な意味がどの個人辞書にも共通しているので、「意味安定実体」とよべます。

右図の「職人」「革」「箱」がこの「普通実体A」に当たります。

「普通実体A」は主格・客格のいろいろな格に立つことができます。



図W6-9 職人-ga 革-de 箱-o tukur-u.

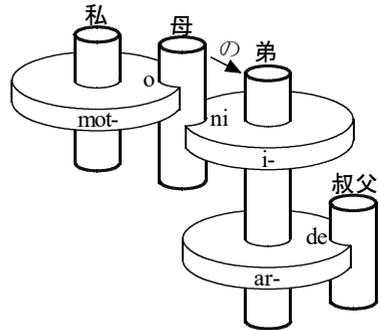
[1] 普通実体B 話者依存実体 実詞B

「私・夫・母・自分」などの実体は、話者により指す実体が異なります。

このような実体は話者が決まれば、指す実体が決まりますので、「話者依存実体」と名付けることができます。

「普通実体B」も主格・客格のいろいろな格に立つことができます。

ただし、「叔父は母の弟である」という文で、「叔父」で具体的に指す人を考えず、



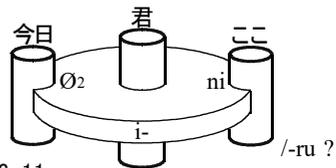
図W6-10 母 no 弟-01が 叔父-de ar-u

文を一般論としていうときは、「母」も「弟」も「叔父」も「普通実体A」になります。

[1] 普通実体C 状況依存実体 実詞C

「あなた・今日・ここ」などの実体は、状況により指す実体が異なりますので、「状況依存実体」と名付けられます。いろいろな格に立つことができます。

ただし、「日本語では、普通は目上の人をあなたと呼ばない」のように、「あなた」で具体的に指す人がなく、文が一般論であるときには、「あなた」等の普通実体Cも、「普通実体A」になります。



図W6-11

君-01 今日-02 ここ-ni i-ru ?

問W6-6 「奥さん元気?」「彼、奥さんいるの? 独身?」の「奥さん」の違いは?

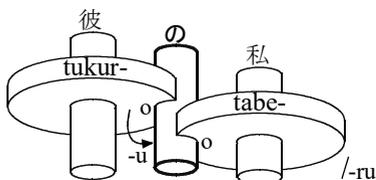
問W6-7 「来週は中国へ出張です。」の「来週」はどの普通実体ですか。

[1] 普通実体D 代用実体 実詞D

「普通実体D」は実体として独立した「の」です(本書p.58参照)。使用するときは何の代用が明らかにする必要があります。

右図の例では「彼を作る」が「の」を修飾しています。「の」は「料理」等の代用だということが分かります。

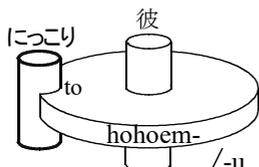
この「の」はいろいろな格に立つことができます。



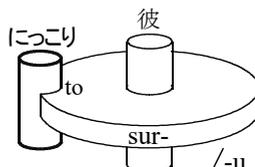
図W6-12 彼-ga tukur-u の-o tabe-ru

[1] 普通実体E 格限定実体 実詞E

上に見た普通実体A～普通実体Dはいろいろな格に立つことができますが、この「普通実体E」は立つ格が限定されています。たとえば、顔の様子を表す実体「にっこり」は「と格」にしか立ちません。



図W6-13 彼-01は にっこり(-to) hohoem-u



図W6-14 にっこり(-to) sur-u

「にっこり」は「と格」の1格にしか立ちませんが、p.86で見た「静か」は「に格」と「で格」の2格に立ちます。ほかに、3格、4格に立つ実体などもあります。

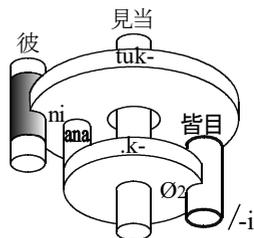
[1] 普通実体F 否定属性限定格実体 実詞F

この「普通実体F」は、否定属性の限定格にしか立ちません。たとえば、「皆目」です。

彼-ni-wa かいもく-02 見当-ga tuk-ana.k-i の構造は右図のとおりです。

この構造で「かいもく(皆目)」は普通の属性「(見当が) tuk-」には関わらず、否定属性 ana.k- の 02 格に立っています。これは、

*かいもく-02 見当-ga tuk-
と言えないことで確認できます。



図W6-15

かいもく-02 見当-ga tuk-ana.k-i

問W6-8 「成人式に着たのは母のものです。」の「の」と「もの」の説明。

問W6-9 「この話は、あなたが否定できる。」という文がおかしい理由は？

W6.3: 実体[2] 疑問実体

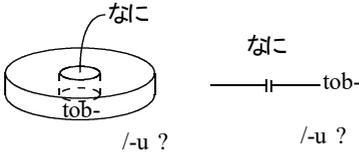
属性の板に穴をあけ、疑問を表す実体

『文法』6.2

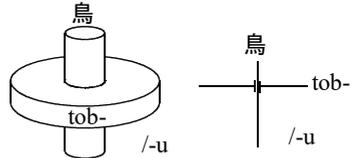
「疑問実体」は「なに」「どれ」「どこ」などの疑問を表す実体で、構造上では穴として表現します。穴ですから、埋めること(答えること)が期待されます。

また、穴ですから、「は」による「ふちどり」がしにくく、「なには好き？」とふつうは言いません。(ただし、疑問実体を「普通実体C」として、「お酒」をさすものとして使用する場合は「ナニ(=お酒)は好き？」のように「は」が使えます。)

たとえば、「何が飛ぶ？」という構造は下左図で、ここには穴があいています。聞き手にはこの穴をふさぐことが期待されていますので、たとえば「鳥」という実体でふさぎます。……「鳥が飛ぶ」すると、下右図のようになります。(第3主格)

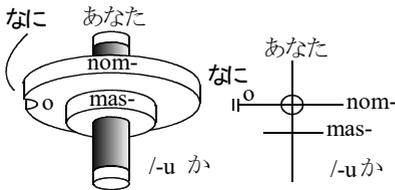


図W6-16 何-ga tob-u ?

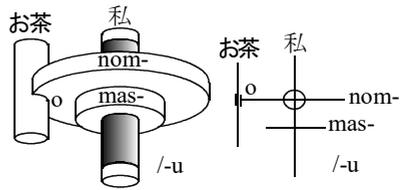


図W6-17 鳥-ga tob-u

「あなたは何を飲みますか?」の場合は、「なに」が客格のo格にあります。穴としてあいた「なに」を「お茶」で埋めると「私はお茶を飲みます」となります。

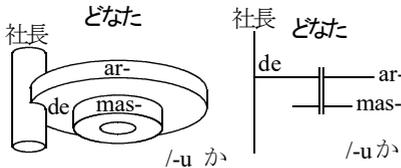


図W6-18 何-o nom-i=mas-u か

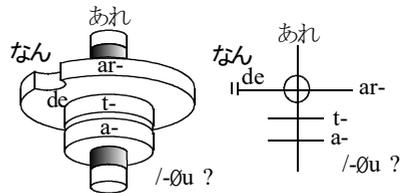


図W6-19 お茶-o nom-i=mas-u

疑問実体が敬語の「どなたが社長ですか」でも、下左図のようになります。下右図のように、過去の形「あれは何だった」にもなります。



図W6-20 どなた-ga 社長-de #s-u か



図W6-21 何-d=ar-i=t-0=a-0u ?

#は右の枠内の省略を示します de ar-i=mas-u ka

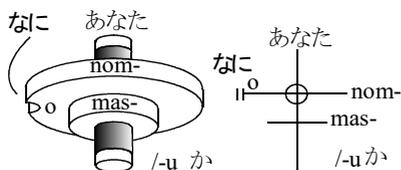
t

問W6-10 疑問実詞「いつ」は、なぜ答えなければならないのですか。

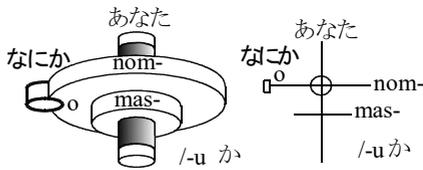
W6.4: 実体[3] 不特定実体

「[2]疑問実体」の穴を「か」で埋め、不特定を表す実体

「[2]疑問実体」であいた穴を「か」で埋め、それで不特定であることを示します。たとえば、[2]の疑問実体「なに」を使用して、「なにを飲みますか？」とした場合は、この「なに」が穴となり、疑問の的になります(左下図)。これが「か」によって埋められて「なにか」となると、「実体[3]不特定実体」になります(下右図)。



図W6-22 なにを飲みますか？



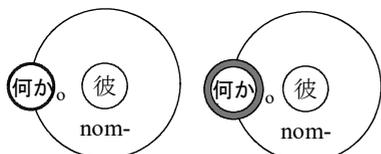
図W6-23 なにか(を)飲みますか？

「実体[3]不特定実体」では、第1の関心事を表示するのは動詞です。「不特定実体」から「か」を除いた、「実体[2]疑問実体」にあたる部分が表示しているのは、第2の関心事で、副次的なもの、不特定なものとなります。

たとえば、「なにか(を)飲みますか」の場合、関心事の第1は動詞の表すことで、「飲むか、飲まないか」です。「なに」を飲むかは、副次的な関心事となります。

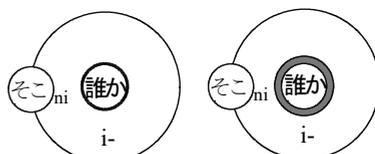
なお、下の例で見るように、描写の際(ことばで表現するとき)には、多くの場合、格詞は省略されます。

「実体[2] 疑問実体」とは異なり、「は」が使いやすくなります。というのも、上右図のように、穴が埋められ、普通実体に準じた実体になるので、「ふちどりがしやすくなるからです(S1.5参照)。



なにか(を)飲む なにか(を)は飲む

図W6-24



だれか(が)いる だれか(は)はいる

図W6-25

- | | | |
|-----------------|---|------------------|
| なにか(を)飲むでしょう。 | → | なにか(を)は飲むでしょう。 |
| だれか(が)いるよ。 | → | だれか(は)はいるよ。 |
| どこか(へ)行きたい。 | → | どこか(へ)は行きたい。 |
| いつか(02)できるでしょう。 | → | いつか(02)はできるでしょう。 |

問W6-11 「いつ」と「いつか」の違いについて説明してください。

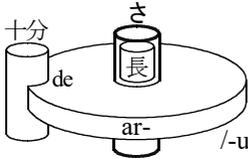
問W6-12 「いつもいる」の「いつも」の構造は「いつか」と似ていますか。

W6.5: 実体[4] 円筒実体

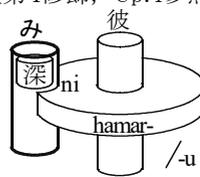
実体を内蔵する実体

「円筒実体」には、「さ、み、げ、そう、らし、っぼ、まっ」などがあります。

「さ、み」は普通実体Aを作ります。「長さ」「深み」という実体は、「長い naga.k-i」「深い huka.k-i」という形容詞の形容実体「長 naga」「深 huka」を含んで実体となっています。「長さ naga+sa」「深み huka+mi」と表記しますが、記号の+は実体どうしを結びつける「複合手」を表します。(第4修飾, Up.4参照)

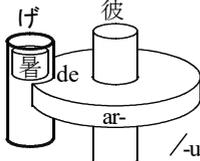


図W6-26 長+さ-ga 十分-d(e) a(r-u)

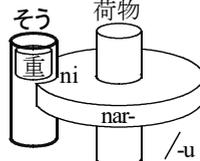


図W6-27 深+み-ni hamar-u

「げ、そう」は「で格、に格」にしか立たない「普通実体E」を作ります。

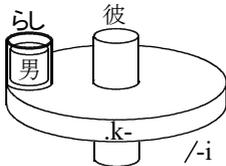


図W6-28 暑+げ-d(e) a(r-u)

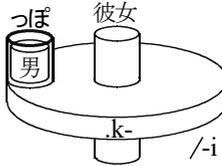


図W6-29 重+そう-n(i)n a(r-u)

「らし、っぼ」は「男らし.k-i」「男っぼ.k-i」のように、形容実体を作ります。形容実体については「[7]形容実体」(p.96)を参照してください。



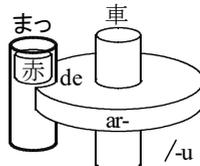
図W6-30 男+らし.k-i



図W6-31 男+っぼ.k-i

「まっ」は「まっ赤」のように、普通実体E(ないし普通実体A)を作ります。

ただし、「微妙意味付加詞」の「まっ」もありま(まっ白い)。答U2-20を参照してください。



図W6-32 車-の1-は まっ+赤-d(e) a(r-u)

問W6-13 「苦みが効いている」の「苦み niga+mi」について説明してください。

W6.6: 実体[5] 転成実体

動詞・形容詞からできた実体 包含実体の一種

「転成実体」というのは、動詞あるいは形容詞が実体になったものです。

例: 動詞 yom- (読む) → yom-i=Ø (読み) 読み が深い
 形容詞 too.k- (遠い) → too.k-u=Ø (遠く) 遠く へ行く

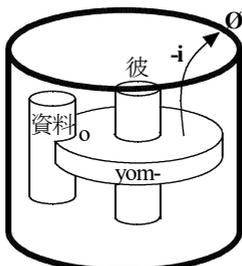
動詞・形容詞が包含実体 Ø の中に入って、中から包含実体を修飾します。修飾に使う実体修飾第2描写詞は、動詞の場合が -i で、形容詞の場合が -u です。

動詞が実体に転成

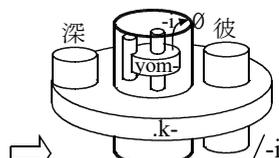


図W6-33

彼 Ø₁ yom-



図W6-34 実体 読み yom-i=Ø



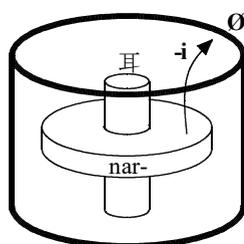
図W6-35

yom-i=Ø-ga 深い

「資料読み(資料≡読み)」という実体も生じます。「資料の読み」のようにノが入ることもあります。両者とも格詞(o)が必ず省略されます。

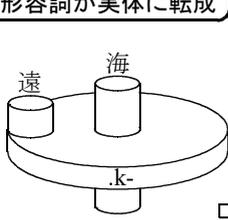
「婚姻届け」なども同じです。

「耳鳴り mimi-ga nar-i=Ø」では、「耳」が動詞 nar- に対して主格に立っています。



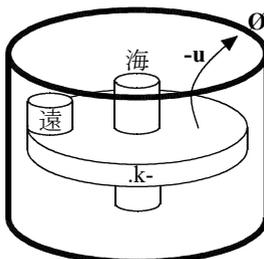
図W6-36 耳-ga nar-i=Ø

形容詞が実体に転成

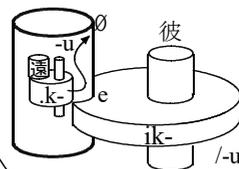


図W6-37

海 Ø₁ too.k-



図W6-38 実体 遠く too.k-u=Ø



図W6-39

遠.k-u=Ø-e ik-u

形容詞からの転成実体は、「近く・早く・遅く」などと、数は限られています。

問W6-14 「月見が丘」「遠くの親類より近くの他人」の構造を示してください。

W6.7: 実体[6] 包含実体

構造内蔵実体 (包含実体の「 \emptyset 包」とも) 『文法』 6.3~6.7

「包含実体」はある構造を内蔵し、それを実体(名詞)として扱えるようにします。

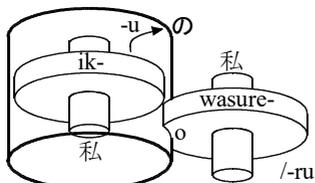
意味のない包含実体

包含実体「の/〇」に語彙の意味はなく、文法的意味(実体化の機能)があります。

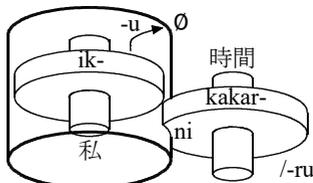
下左図は、「私が行く」という構造を包含実体「の」が実体化して、動詞「忘れる」の「を格」に置いています。……実体化すれば、他の属性の、ある格に置けます。

下右図は、「私が行く」という構造を包含実体「〇」が実体化して、動詞「かかる」の「に格」に置いています。(「〇」は「 \emptyset 包」と表示することもあります。)

両方とも ik- は -u で「の」「〇」を修飾していますが、この -u は実体修飾第1描写詞(名詞修飾詞)です。(場合により実体修飾第2描写詞-i による修飾もあります。)



図W6-40 ik-u=〇-o wasure-ru



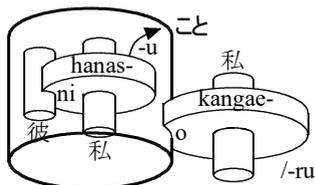
図W6-41 私^が ik-u=〇-ni-wa waの図示は省略

意味のある包含実体

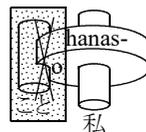
「こと」や「ため」「結果」「そう」などにはもともと語彙の意味があります。包含実体としての使い方では、その意味において、ある構造を実体化します(下左図)。

このとき、この実体は、属性(話す)とは直接の格関係がありません(下右図)。

(彼に私が)話すことを私が考える



図W6-42 「こと」は構造を実体化



図W6-43 ? ことを話す

「こと」は hanas- と格関係がない

「(話す)こと」の意味は、「(話す)内容」と「(話す)行為」のどちらもあります。

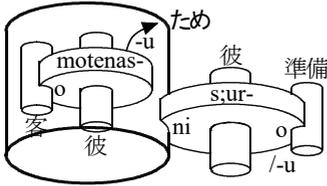
意味を持つ包含実体は、ほかにもたくさんあります。

問W6-15 「雨が降るそうです」「雨が降りそうです」の下線部を説明してください。

問W6-16 「ここで辛いのを食べたのを覚えている」の2つの「の」の違いは?

次の文の下線部でも、「ため」は motenas-と格関係がありません。「ため」は構造を実体化しています。「ため」の意味は、この場合、「目的」です。

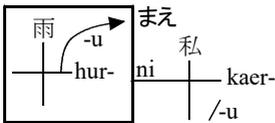
(彼が)客をもてなすために準備する



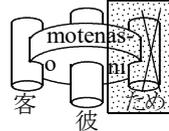
図W6-44 「ため」は構造を実体化

次の文の下線部でも、「まえ」は hur-と格関係がありません。「まえ」は構造を実体化しています。「まえ」のこの場合の意味は「時間的に以前」です。

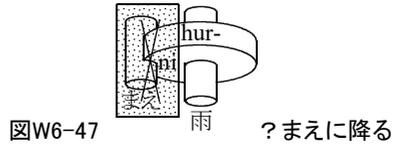
(雨が)降るまえに私は帰る



図W6-46 「まえ」は構造を実体化



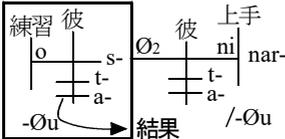
図W6-45 ?ためにもてなす
「ため」は motenas-と格関係がない



図W6-47 ?まえに降る
「まえ」は hur-と格関係がない

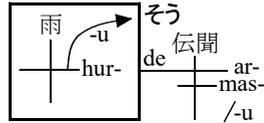
意味のある包含実体のいくつかの例

[結果]



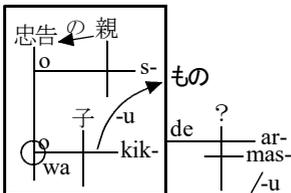
図W6-48 練習した結果の2上手になった

[そう]



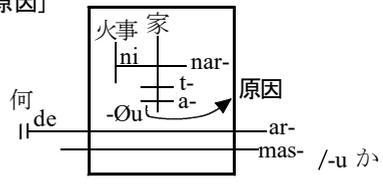
図W6-49 雨が降るそうです

[もの]



図W6-50 親の忠告は聞くものです
この「です」は形式的なものなので、
主体は特定できません。

[原因]



図W6-51 火事になった原因は何ですか

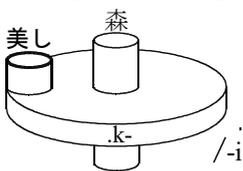
問W6-17 「彼が来た理由を教えてください」の「理由」を説明してください。

W6.8: 実体[7] 形容実体

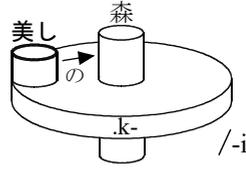
形容詞を構成する実体

第8章, U全体

「形容実体」は、たとえば「美し」のように .k- の構造とともに形容属性を形成して、「美し.k-」となります。実体なので、「美しの森」のように、「の」でほかの実体とつなぐことのできる形容実体もあります。



図W6-52 森-ga 美し.k-i.



図W6-53 美しの森

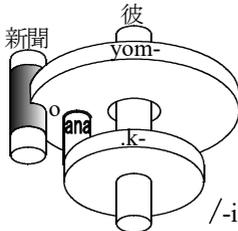
「形容実体」にはさまざまなものがあります。詳しくは『日本語のしくみ(3)』で扱っていますので、そちらを参照してください。

W6.9: 実体[8] 否定実体

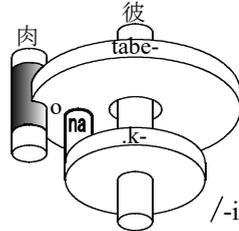
否定属性(否定詞)を構成する実体

第26章

「否定実体」は「読まない yom-ana.k-i」や「食べない tabe-na.k-i」のように、動詞の否定属性を作るときに使われる「実体 (a)na」です。形は上の「形容実体」に似ていますが、動詞に接していることや、「*新聞を読まの彼」「*肉を食べなの彼」のように「ノつなぎ」ができないことが異なります。(□ は発音しないことを表します。)



図W6-54 新聞-o-wa yom-ana.k-i



図W6-55 肉-o-wa tabe-na.k-i

「.k-」は、うしろに -a, -u, -e がくるときは発音されます。

yom-ana.k-i
yom-ana.k-□=ar-oo
yom-ana.k-u=te-∅
yom-ana.k-ereba
この .k-ereba の構造は、.k-i=∅包-∅1=ar-eba かもしれません。

tabe-na.k-i
tabe-na.k-□=ar-oo
tabe-na.k-u=te-∅
tabe-na.k-ereba

なお、形容詞の否定は、この動詞用の否定属性ではなく、na.k- という別の形容詞が行います。 美しく ない utukusi.k-u na.k-i (U6.2参照)